

2025年度 視察見学会 EXPO2025 大阪・関西万博

日 時 令和7年9月24日(水)
場 所 EXPO2025 大阪・関西万博
参 加 者 15名

“いのち輝く未来社会のデザイン”をテーマに、自然環境や多様な文化との共生を尊重するという考え方で企画・運営されている「大阪・関西万博」。この業界の未来のヒントが得られると考え、尾張北支部(南村朋幸支部長)は20年ぶりに国内で開催される万博の視察に行きました。

会場までのバスの道中、進行を務める加藤友美支部役員は、「施設見学会に参加いただきありがとうございます。今回は万博開催に伴い、例年とは趣向を変え日本館の見学を企画しました。本日の見学を通じて、皆さまの今後の業務や取り組みの一助となれば幸いです。」と期待感の高まるあいさつをしました。

南村支部長からも、「日頃は当協会また支部活動に多大なるご協力をありがとうございます。万博という特別な機会を通じて、資源循環への理解と学びを一層深めてまいりましょう。」とあいさつをいただきました。

今年度の施設見学会では、万博開催にあたり『日本館』を見学する機会を得ました。日本館では“資源循環”や“持続可能な未来”をテーマに、最先端の技術とデザインを融合させた展示が行われており、我々の業務領域にも通じる多くの示唆を得ることができました。

資源の再利用や環境負荷低減に向けた新たな発想、そしてそれを社会に伝える表現力の重要性を改めて感じました。今回の見学を通じ、循環型社会の実現に向け、企業として果たすべき役割を再確認しました。

大阪・関西万博について国や企業の投資、そして2兆円を超えるとされる経済効果を実感しながら、日本での開催は今後しばらく巡ってこないであろう貴重な機会を、実際に参加することでその意義を肌で感じることができました。「毎年実施している施設見学会は、仕事の理解と研修での学びを深め、参加者が楽しみながら学べる機会として、これからも継続していきたいです。」という今村昌根副支部長のあいさつで施設見学会は閉会となりました。



万博会場テラスからの風景



大屋根リング



石油を作る藻類と言われている
ボツリオコッカスを育てている

